ダイズの病害虫防除対策（８月）

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがあります。農薬登録情報提供システムホームページ（https://pesticide.maff.go.jp/）等で最新の登録内容を確認してください。（記載中の登録内容は令和３年８月11日現在）
液剤、水和剤、フロアブル剤、乳剤の生育中の10ａ当たり散布液量は150～300Ｌとする。

１　紫斑病

（１）種子は無病のものを選び、種子消毒して播種してください。罹病種子は発芽不良や生育不良になります。
（２）開花後 25 日頃から莢や茎や葉に紫黒褐色の不整形病斑を作ります。種子には莢が黄化するころから、紫色の病斑がへそを中心に拡大し、品質低下の原因になります。
（３）薬剤防除はダイズの開花後 20～40 日後に 1～2 回実施してください。その際、薬剤が莢に十分付着するようにしてください。
（４）収穫が遅れると発生が多くなるため、適期収穫を励行してください。また、収穫後に高水分のままで放置すると紫斑粒が増加するので、収穫後は速やかに乾燥、脱穀を行ってください。

表１　紫斑病の防除薬剤

	薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期（収穫前日数）	使用濃度、10a当たり使用量(散布液量)	使用回数の制限※
散布剤	ベルクート水和剤	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07	収穫７日前まで	1,000倍	４回以内
	スミチオンベルクート粉剤ＤＬ	MEP	１Ｂ	開花期～若莢期(但し､収穫21日前まで)	３kg	４回以内
		ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07			
	Ｚボルドートレボン粉剤ＤＬ	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	３Ａ	収穫14日前まで	３～４kg	２回以内
		銅	M01			
無人航空機散布	アミスター20フロアブル	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ	Ｃ３	収穫７日前まで	16～24倍（800ml）	２回以内
	ベルクートフロアブル	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	Ｍ７	収穫７日前まで	6倍(800ml)	４回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。
・イミノクタジンを含む農薬の総使用回数：４回以内(但し、種子粉衣は１回以内)
・ＭＥＰを含む農薬の総使用回数：４回以内
・エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数：２回以内
・アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数：２回以内

２　べと病

（１）本病は降雨の多い６～７月と９月に多発し、葉に黄白色の不成形病斑が発生を作り、葉裏に淡灰色の綿毛状の菌叢ができます。発生が多いと生育抑制や落葉が見られます。
（２）罹病しやすい品種では生育初期から発生が見られるので、密植や過繁茂で通気性が悪くなって湿度が高くならないように注意してください。
（３）薬剤防除は発生初期から７～10 日おきに数回実施しましょう。

表２　べと病の防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期（収穫前日数）	使用濃度	使用回数の制限※
アミスター20 フロアブル	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ	Ｃ３	収穫７日前まで	2,000 倍	２回以内
フェスティバルM水和剤	ｼﾞﾒﾄﾓﾙﾌ	Ｈ５	収穫 45 日前まで	750 倍	３回以内
	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ	M03			
ライメイフロアブル	ｱﾐｽﾙﾌﾞﾛﾑ	Ｃ４	収穫７日前まで	2,000 倍	３回以内
ランマンフロアブル	ｼｱｿﾞﾌｧﾐﾄﾞ	Ｃ４	収穫７日前まで	1,000～2,000 倍	３回以内
リドミルゴールドＭＺ	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ	M03	収穫 45 日前まで	500 倍	３回以内
	ﾒﾀﾗｷｼﾙ M	Ａ１			

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。
・アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数：２回以内
・ジメトモルフを含む農薬の総使用回数：３回以内
・マンゼブを含む農薬の総使用回数：３回以内
・アミスルブロムを含む農薬の総使用回数：４回以内（但し、種子への処理は１回以内、散布は３回以内）
・シアゾファミドを含む農薬の総使用回数：４回以内（但し、種子への処理は１回以内、散布は３回以内）
・メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数：４回以内（但し、種子粉衣及びは種前の塗抹処理は合計１回以内、は種後は３回以内）

３　アブラムシ類

（１）ジャガイモヒゲナガアブラムシはダイズわい化病ウイルスを媒介することがあります。ダイズアブラムシやマメアブラムシでは多発すると葉に黄色の吸汁痕が多くみられ、葉の萎縮などが発生します。

（２）わい化病が発生したことのあるほ場では、有翅虫飛来初期から薬剤防除を行ってください。それ以外では葉に黄色の吸汁痕が見られ場合は防除を行ってください。

表３　アブラムシ類の防除薬剤

	薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a当たり 使用量(散布液量)	使用回数の 制限※
散布剤	エルサン乳剤	PAP	１Ｂ	収穫７日前まで	1,000～2,000倍	２回以内
	オルトラン水和剤	ｱｾﾌｪｰﾄ	１Ｂ	収穫 60 日前まで	1,000倍	３回以内
	ダントツフロアブル	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ	４Ａ	収穫７日前まで	2,500～5,000倍	３回以内
	マラソン乳剤	ﾏﾗｿﾝ	１Ｂ	収穫７日前まで	2,000倍	３回以内
無人航空期散布	オルトラン水和剤	ｱｾﾌｪｰﾄ	１Ｂ	収穫 60 日前まで	16倍(1.6L)	３回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

・ＰＡＰを含む農薬の総使用回数：２回以内

・アセフェートを含む農薬の総使用回数：３回以内

・クロチアニジンを含む農薬の総使用回数：４回以内（播種時の土壌混和は１回以内、散布は３回以内）

・マラソンを含む農薬の総使用回数：３回以内

４　ツメクサガ

（１）６月後半と８月後半に幼虫が出現します。６月後半の被害は本種によるものが多く、被害は突発的に発生することが多いです。第２世代は葉のほかに莢や種子を大きくえぐったように食害します。

（２）第１世代幼虫の食害が目立ってきたら防除してください。虫齢が進むと加害が急激に多くなるので防除時期が遅れないようにしてください。

表４　ツメクサガの防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤 系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度	使用回数 の制限※
エルサン乳剤	PAP	１Ｂ	収穫７日前まで	1,000倍	２回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

・ＰＡＰを含む農薬の総使用回数：２回以内

５　ウコンノメイガ

（１）成虫は７月上旬からダイズほ場に飛来し、７月下旬頃から幼虫が出てくる。葉を円筒状に巻き、８月中旬のピーク時にはほ場全体に多くの葉巻被害が見られます。莢は加害しませんが多発すると登熟に影響します。

（２）ダイズの生育が旺盛で葉色が濃く、株が繁茂しているほ場で、幼虫による葉巻被害が多くなる傾向があります。ほ場によって発生状況の差が大きいので、よく確認してください。

（３）葉巻の発生が目立つ場合は、若齢幼虫の多い７月下旬～８月上旬に薬剤散布を実施してください。

表５　ウコンノメイガの防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤 系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度	使用回数 の制限※
スミチオン乳剤	MEP	１Ｂ	収穫21日前まで	1,000倍	４回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

・ＭＥＰを含む農薬の総使用回数：４回以内

６　マメハンミョウ

（１）成虫は７月下旬～８月にダイズほ場に出現して、群れで葉を食害します。加害しながら移動するので、発生が多いと葉が食い尽くされることがあります。

（２）８月末頃から地中に産卵し、幼虫はイナゴなどの卵を食べて生育します。

（３）食害が目立つ場合は防除を行ってください。

表６　マメハンミョウの防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤 系統	使用時期 (収穫前日数)	10ａ当たり使用量	使用回数 の制限※
マラソン粉剤３	ﾏﾗｿﾝ	１Ｂ	収穫７日前まで	３kg	３回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

・マラソンを含む農薬の総使用回数：３回以内

7　吸実性カメムシ類

（1）ダイズの開花期（７月下旬～８月上旬）以降に飛来し、莢や葉に産卵することで幼虫が黄熟期まで長期にわたって加害します。子実肥大の初期に吸汁されると子実がほとんど肥大しません。中期以降に吸汁されると変形、変色した子実となり、商品性が著しく低下します。

（2）防除は、着莢期～子実肥大期に１～２回薬剤散布を行ってください。

表７　吸実性カメムシ類の防除薬剤

	薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期（収穫前日数）	使用濃度、10ａ当たり使用量（散布液量）	使用回数の制限※
散布剤	アルバリン顆粒水溶剤	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	４Ａ	収穫７日前まで	2,000倍	２回以内
	スタークル液剤10	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	４Ａ	収穫７日前まで	1,000倍	２回以内
	スタークル顆粒水溶剤	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	４Ａ	収穫７日前まで	2,000倍	２回以内
	スミチオン乳剤	MEP	１Ｂ	収穫21日前まで	1,000倍	４回以内
	ダントツフロアブル	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ	４Ａ	収穫７日前まで	2,500～5,000倍	３回以内
	トレボン乳剤	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	３Ａ	収穫14日前まで	1,000倍	２回以内
	MR．ジョーカー粉剤ＤＬ	ｼﾗﾌﾙｵﾌｪﾝ	３Ａ	収穫７日前まで	４kg	２回以内
	スミチオンベルクート粉剤ＤＬ	MEP	１Ｂ	開花期～若莢期（収穫21日前まで）	３kg	４回以内
		ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07			
	Ｚボルドートレボン粉剤ＤＬ	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	３Ａ	収穫14日前まで	３～４kg	２回以内
		銅	M01			
無人航空機散布	スタークル液剤10	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	４Ａ	収穫７日前まで	８倍（800ml）	２回以内
	トレボンエアー	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	３Ａ	収穫14日前まで	８倍（800ml）	２回以内
	MR．ジョーカーＥＷ	ｼﾗﾌﾙｵﾌｪﾝ	３Ａ	収穫14日前まで	16倍（800ml）	２回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

・ジノテフランを含む農薬の総使用回数：３回以内（但し、は種時の土壌混和は１回以内、散布は２回以内）

・ＭＥＰを含む農薬の総使用回数：４回以内

・クロチアニジンを含む農薬の総使用回数：４回以内（但し、は種時の土壌混和は１回以内、散布は３回以内）

・エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数：２回以内

・シラフルオフェンを含む農薬の総使用回数：２回以内

・イミノクタジンを含む農薬の総使用回数：４回以内（但し、種子粉衣は１回以内）

8　マメシンクイガ

（1）ダイズを連作すると急激に発生量が増加することから３年以上の連作はさけて、田畑輪換を行ってください。

（2）成虫は年１回、８月中旬頃に羽化します。日長時間に反応して発生するため、発生時期は大きく変動しません。８月下旬～９月中旬に莢に１粒ずつ産卵し、幼虫が豆を加害し 20 日程度で莢から脱出して、土中で繭を作ります。

（3）３年以上連作するほ場では、８月５半旬頃の防除を基本とし、多発が予想される場合には９月１～２半旬にも追加防除を行ってください。

表８　マメシンクイガの防除薬剤

	薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期（収穫前日数）	使用濃度、10ａ当たり使用量（散布液量）	使用回数の制限※
散布剤	ダイアジノン粒剤５	ﾀﾞｲｱｼﾞﾉﾝ	１Ｂ	収穫30日前まで	４～６kg	４回以内
	スミチオンベルクート粉剤ＤＬ	MEP	１Ｂ	開花期～若莢期（収穫21日前まで）	３kg	４回以内
		ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ	M07			
	Ｚボルドートレボン粉剤ＤＬ	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	３Ａ	収穫14日前まで	３～４kg	２回以内
		銅	M01			

無人航空機散布	プレバソンフロアブル	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	28	収穫７日前まで	16～32倍（800ml）	２回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。
・ダイアジノン：6回以内（種子粉衣は１回以内、粒剤は５回以内（生育期の処理は４回以内））
・ＭＥＰを含む農薬の総使用回数：４回以内
・イミノクタジンを含む農薬の総使用回数：４回以内(但し、種子粉衣は１回以内)
・エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数：２回以内
・クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数：２回以内